

卒業論文

ホームネットワークにおけるデータ特性を考慮した SDNによる優先度制御手法

SDN Based Priority Control Method Considering Data Attributes
for Home Network

同志社大学 理工学部 情報システムデザイン学科

2018 年度 1033 番

国本 典晟

指導教員

理工学部 情報システムデザイン学科
ネットワーク情報システム研究室

佐藤 健哉 教授

2022 年 2 月 10 日

概要

SDN のホームネットワークへの適用が期待されているが、ホームネットワークには特性の異なるデータの通信が混在し、通信の種類と量が時間帯によって変動するため、それらの制御方法が課題となっている。現在のインターネットサービスプロバイダはデータ特性を考慮せず制御を行うため、通信帯域の逼迫の際に重要なパケットの損失などの問題が生じる。また、これまで従来の優先度分類では、テレワークの増加などの昨今のリアルタイム性の高い通信の需要を十分に考慮できておらず、優先度が固定されていたため状況に応じた優先度制御が困難であった。本研究では、リアルタイム性を含むデータ特性から通信を4つに分類し、動的に優先度を設定し、優先度制御を行う手法を提案した。ホームネットワークを想定したネットワークを構築して実験を行い、先行研究と比較してリアルタイム性の点で向上し、状況に応じて優先度分類の変更を行った。

キーワード

1. SDN, 2. ホームネットワーク, 3. 分類アルゴリズム

目次

第1章	はじめに	1
1.1	背景	1
1.2	目的	1
1.3	本論文の構成	2
第2章	関連研究	3
2.1	遅延要件による優先度分類	3
2.2	帯域保証による優先度分類	3
第3章	提案手法	5
3.1	SDNによるネットワーク管理	5
3.2	優先度分類	6
3.3	アドミSSION制御	8
第4章	評価	12
4.1	評価環境	12
4.2	通信性能	13
4.3	通信のリアルタイム性	13
第5章	考察	14
第6章	おわりに	15
	謝辞	16
	参考文献	17
	研究業績	18

第1章 はじめに

1.1 背景

Software-Defined Networking (SDN) とは、図 1 のようにネットワーク制御機能とデータ転送機能を分離し、データ転送機能のみをネットワーク機器に担わせ、外部のソフトウェアが一括してネットワークの制御を行う技術の総称である。SDN 登場以前、ルータなどのネットワーク機器はネットワークを制御する機能とデータを転送する機能を併せ持っていたため、ネットワークにおける制約が大きく、環境の変化に対応するのが困難であった。SDN により、ネットワークをソフトウェアで集中制御することで、ネットワークの仮想化、迅速・柔軟な変更、管理の効率化などが可能になり、企業ネットワークや Information and Communication Technology (ICT) システムなどに利用されている [1]。

一方、ホームネットワークの拡張や複雑化のため、SDN のホームネットワークへの適用が期待されている。ホームネットワークとは、PC やスマートフォン、Internet of Things (IoT) 機器などから構成される LAN 環境を家庭内に構築したものである。近年、画像や動画データなどの大容量データの需要の拡大や IoT 機器の普及に伴い、ホームネットワークとインターネット間の通信量が急速に増加し、通信帯域の逼迫が危惧されている [2]。現在、ホームネットワークとインターネット間の通信を管理しているインターネットサービスプロバイダ (ISP) は、通信の重要度や Quality of Service (QoS) 要件といった特性を考慮せず制御しているが、通信帯域が逼迫した際に重要なパケットの損失や QoS の低下などの問題が生じる恐れがある。この問題の解決のため、SDN を利用して ISP がホームネットワークを集約して最適化された帯域制御を行う方式が提案されている [3]。

ホームネットワークには、重要度や QoS 要件などのデータ特性の異なる通信が混在している。例えば、緊急事態を通知するデータは重要度が高いため遅延やパケットの損失が許されず、動画データは多少のパケットの損失は許されるが大きく遅延してはならない。また、近年ではテレワークの増加に伴い、切断されるとリアルタイム性が損なわれるデータの需要が高まっている。加えて、ホームネットワークはユーザや時間帯による通信の種類と量の変動が大きく、ユーザや家庭の状況によって通信の重要度や需要も変化する。こうした重要度や QoS 要件、リアルタイム性などのデータ特性が異なる通信を状況に応じて制御するには、通信をデータ特性から分類し、動的に優先度を設定し、SDN を用いて通信帯域に応じてパケットの破棄などを行う、優先度制御が必要である。

1.2 目的

本研究では、ホームネットワークの制御において問題となるデータ特性が異なる通信や通信の種類と量の変動を解決するため、データ特性を考慮して通信を分類し、動的な優先度制御を行う手法を提案し、状況に応じた優先度の高い通信の品質を改善する。また、リアルタイム性を考慮し、優先度制御に伴うパケットの破棄による通信への影響を軽減することを目的とする。ホームネットワークを想定したネットワークを構築して実験を行い、提案手法の有効性を評価する。

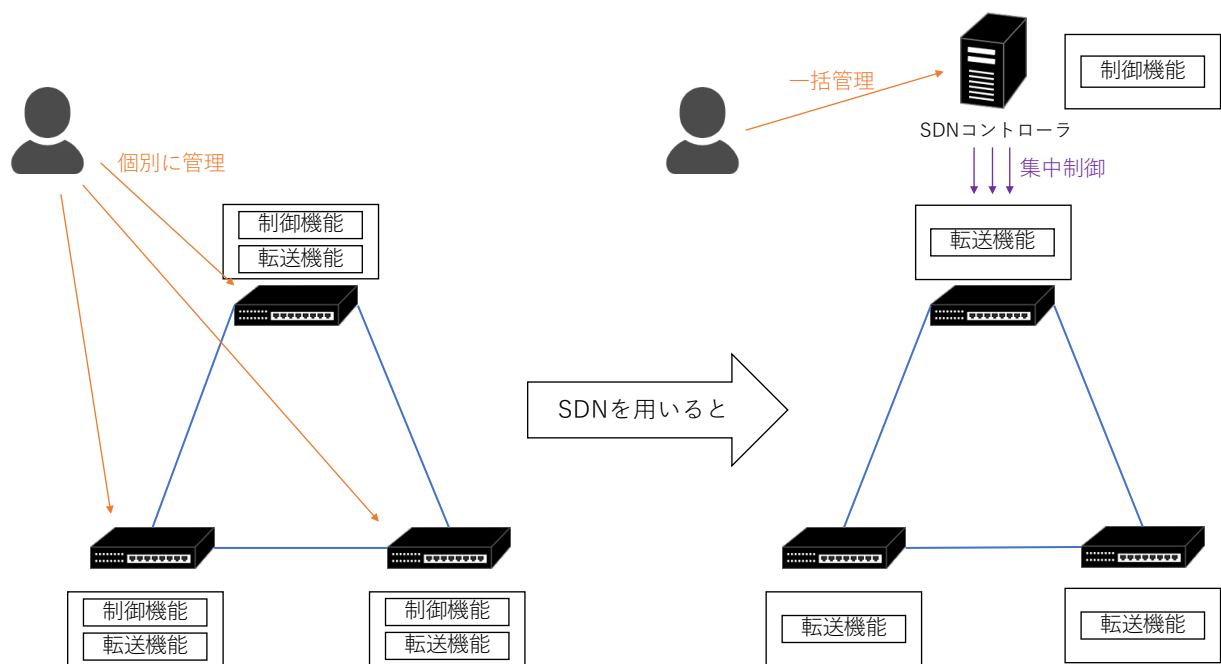


図 1: SDN の概要

1.3 本論文の構成

第2章では、SDNをホームネットワークに適用するために、通信の遅延要件や帯域保証を基準に優先度分類を行なった関連研究について述べる。第3章では、第2章で注目されたデータの特性に合わせて、さらにリアルタイム性を考慮した優先度分類と、その分類を元に行う優先度制御について述べる。第4章では、提案手法の有効性の評価のための実験方法とその評価結果について述べる。第5章では、実験によって得られた結果に対して考察を行う。第6章では、本論文のまとめを述べる。

第2章 関連研究

2.1 遅延要件による優先度分類

Jang らは, 3GPP Long Term Evolution が定義した QoS Class Identifier (QCI) をホームネットワークの通信に適用できるよう, 図 2 のように再定義した [3]. さらに, 各 QCI の遅延要件 (図 2 の Packet Delay Budget) を基準にして通信を 3 つのカテゴリに分類し, 各カテゴリに割り当てる通信帯域の割合を動的に変更することで, QoS と QoE (Quality of Experience) の改善を目指した.

しかし, 通信帯域を割り当てるのみで, 優先度の高い通信のために優先度の低い通信のパケットを破棄する優先度制御を行わないため, QCI=5 に示されるミッションクリティカルな通信のパケットが損失してしまう恐れがある. また, QCI=3 の通信と QCI=4 の通信を同様に制御するなど, 通信のリアルタイム性を考慮しておらず, 通信帯域が逼迫した際に通信品質への影響が懸念される.

2.2 帯域保証による優先度分類

Deng らは, Jang らの QCI を基に, 帯域保証 (図 2 の Resource Type) を基準として優先度を分類した [4]. また, 最も優先度の高い通信の QoS 要件を満たすため, 優先度の低い通信のパケットを破

QCI	Priority	Device type	Resource Type	Packet Delay Budget	Packet Error Loss	Example Services
1	2	Non-M2M	GBR	100ms	10^{-2}	Conversational voice
2	3	Non-M2M	GBR	50ms	10^{-3}	Real time gaming
3	4	Non-M2M	GBR	150ms	10^{-3}	Conversational video
4	5	Non-M2M	GBR	300ms	10^{-6}	Non-conversational video (Buffered Streaming)
5	1	M2M	Non-GBR	60ms	10^{-6}	Mission critical delay sensitive data transfer
6	6	Non-M2M	Non-GBR	300ms	10^{-6}	Video (buffered streaming) TCP-based (for example, www, email, chat, ftp, p2p and the like)
7	7	Non-M2M	Non-GBR	100ms	10^{-3}	Voice, video (live streaming), Interactive gaming
8	8	M2M	Non-GBR	N/A	10^{-6}	Non mission critical delay insensitive data transfer

図 2: ホームネットワーク用に再定義された QCI, Hung-Chin Jang, Chi-Wei Huang and Fu-Ku Yeh. Design A Bandwidth Allocation Framework for SDN Based Smart Home. 2016 IEEE 7th Annual Information Technology, Electronics and Mobile Communication Conference (IEMCON), pp. 1-6, 2016. [3] より引用

棄するアドミッション制御を行なった。これにより、ミッションクリティカルな通信の QoS 要件を満たした。

しかし、2.1 節と同様に、QCI=3 と QCI=4 の通信を同じ優先度で制御しており、通信のリアルタイム性を考慮できていない。また、優先度分類の基準を帯域保証のみとしたため、遅延要件とパケットロス要件の厳しい QCI=7 の通信が最も優先度が低く分類されている。

第3章 提案手法

本研究では、第2章で述べた、ミッションクリティカルな通信のパケットが損失する恐れがある問題や、通信のリアルタイム性を考慮していない問題を解決するために、リアルタイム性を含むデータ特性を考慮した優先度分類と、優先度の高い通信の品質を改善するアドミッション制御を提案する。本章では、まずSDNによるホームネットワークとISP間のネットワーク管理について述べ、その後優先度分類とアドミッション制御について述べる。

3.1 SDNによるネットワーク管理

ホームネットワークにはPCやスマートフォン、IoT機器など様々な通信機器が存在しているが、それらは図3のように、有線または無線で全て家庭用ルータに接続されており、家庭用ルータを介してインターネットに接続している。本論文では、このような家庭用ルータを「ゲートウェイ」と表記する。

ホームネットワークがインターネットに接続するには、図4に示すように、アクセスネットワークとISPを経由する必要がある。ホームネットワーク内で発生したデータは、アクセスネットワークを経由し、ISPが管理するサーバへと到達する。ISPは、サーバにてホームネットワークで発生した

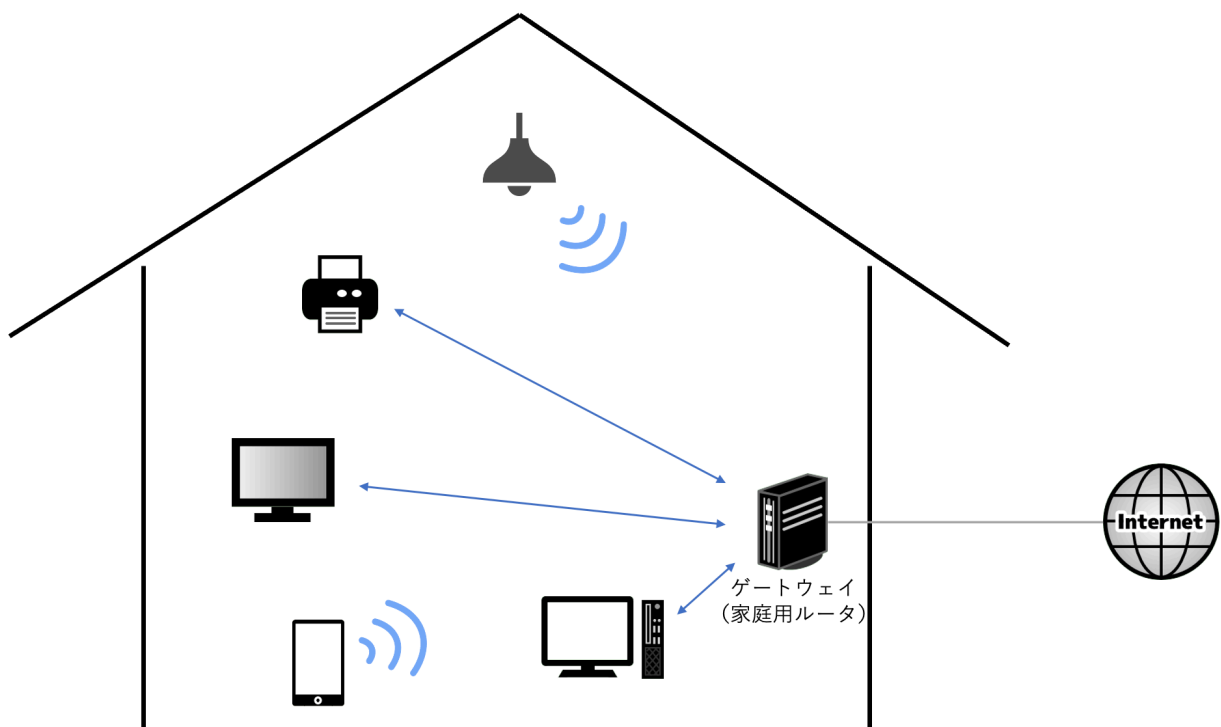


図3: ホームネットワークの構造

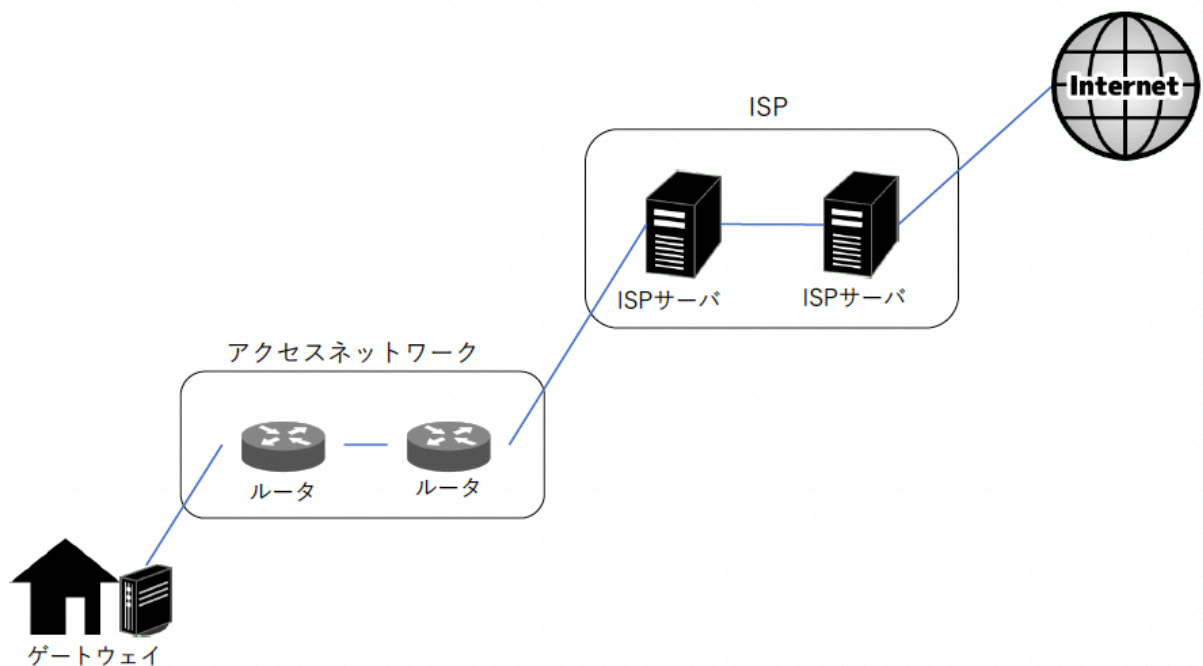


図 4: ホームネットワークとインターネット間のネットワーク

データをインターネットへ接続するための処理を行い、インターネットへデータを送信する。本論文では、アクセスネットワーク内のデータの中継機を「ルータ」、ISP が管理するサーバを「ISP サーバ」と総称する。

1.1 節で述べた通り、SDN とはネットワーク制御機能とデータ転送機能を分離し、データ転送機能のみをネットワーク機器に任せ、外部のソフトウェアが一括してネットワークの制御を行う技術の総称である。ホームネットワークと ISP 間のネットワークに SDN を適用するには、データ転送機能を担うネットワーク機器とネットワーク制御機能を担うソフトウェアが必要となる。データ転送機能を担うネットワーク機器は、図 4 のゲートウェイ、ルータ、ISP サーバが該当する。ネットワーク制御機能を担うソフトウェアとして、新たに SDN コントローラを配置する。SDN によるネットワーク管理を図 5 に示す。SDN コントローラはゲートウェイ、ルータ、ISP サーバと接続しており、これらとネットワーク制御に必要なメッセージをやりとりすることで、ネットワーク全体の制御を行う。また、SDN コントローラは、アクセスネットワークの通信帯域に応じて、3.2 節で述べる優先度分類に従い、3.3 節で述べるアドミッション制御をゲートウェイに指示する。ゲートウェイは、SDN コントローラの指示に従いアドミッション制御を行う。

3.2 優先度分類

ホームネットワークには重要度や QoS 要件、リアルタイム性など、データ特性の異なる通信が混在している。SDN を用いてホームネットワークの通信を制御するために、以下のようにデータ特性を基準として通信を 4 種類に分類し、優先度を設定する。

優先度 1

最も優先度が高い優先度 1 には、火災報知器や侵入者センサなどのミッションクリティ

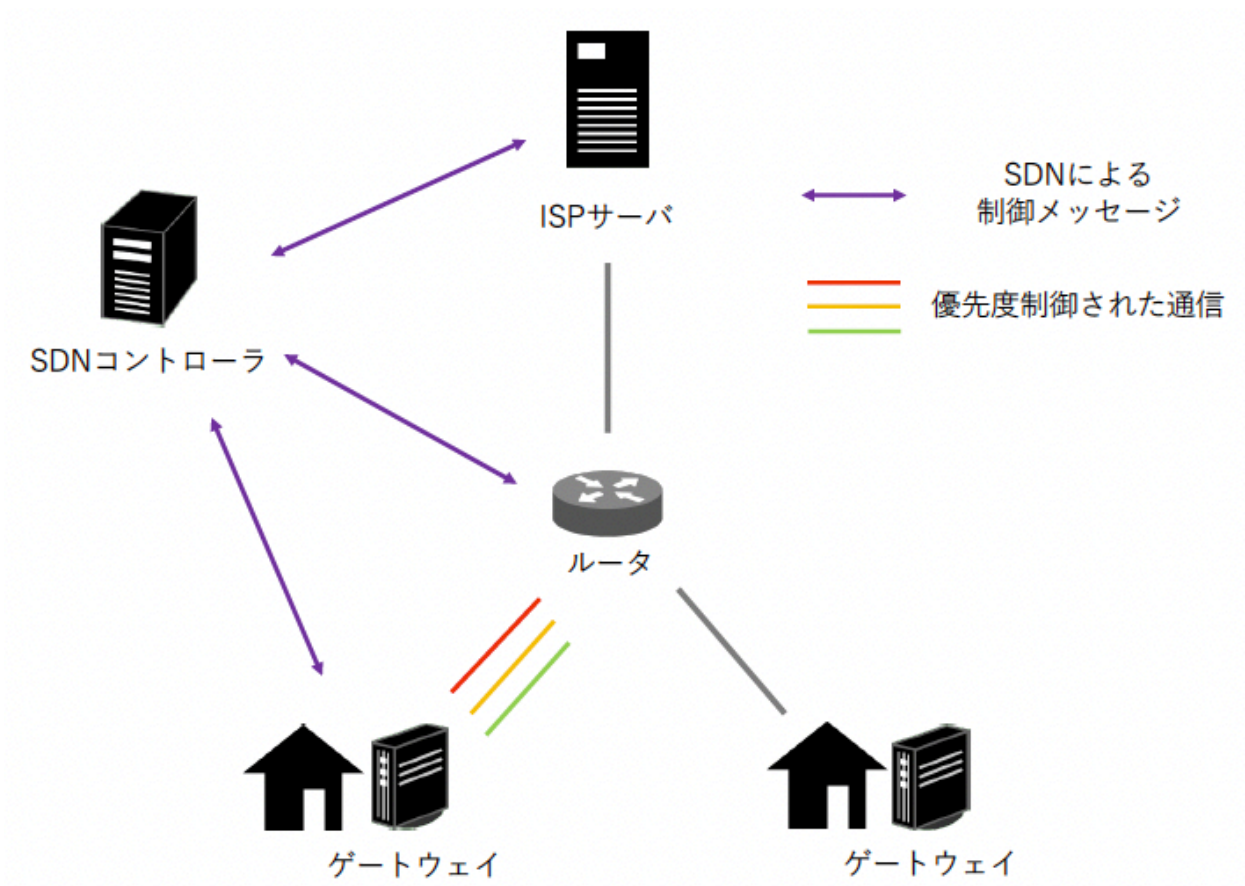


図 5: SDN によるネットワーク管理

カルなデータの通信が該当する。ミッションクリティカルなデータは、遅延やパケットの損失が、生命の危機などの重大な事態につながる恐れがある。また、ミッションクリティカルなデータは通常データサイズが小さく、あまり通信帯域を消費しない。以上のことから、ミッションクリティカルなデータの通信を最も高い優先度 1 に設定する。

優先度 2

次に優先度が高い優先度 2 には、音声通話や Web 会議などのリアルタイム性の高い音声・映像データの通信が該当する。音声・映像データは、遅延が大きい場合やパケットの損失が多い場合には、音声・映像が止まる、途切れるなどの恐れがある。また、音声通話や Web 会議などは人同士のコミュニケーションに用いられるためリアルタイム性が高く、これらの通信が途切れるとテレワークに支障をきたすなどの問題が発生する。以上のことから、リアルタイム性の高い音声・映像データの通信を優先度 2 に設定する。

優先度 3

3 番目に優先度が高い優先度 3 には、録画された動画などのリアルタイム性の低い音声・映像データの通信が該当する。優先度 3 の音声・映像データの通信が途切れた場合、音声・映像の視聴が一時妨げられるなどの問題が発生するが、優先度 2 と比較して通信品質への影響が小さいため、リアルタイム性の低い音声・映像データの通信を優先度 3 に設定する。

優先度 4

最も優先度が低い優先度 4 には、Web サイトなどの TCP による通信や室温センサなどの非ミッションクリティカルなデータの通信が該当する。これらの通信は遅延やパケットの損失の影響が優先度 1~3 の通信と比較して小さく、通信が途切れても通信品質にあまり影響しない。よって、最も優先度が低い優先度 4 に設定する。

3.3 アドミッション制御

3.2 節で述べた通り、優先度 1 の通信のデータはミッションクリティカルであるため、遅延やパケットの損失が許されない。また、優先度 2 の通信はリアルタイム性が高いため、遅延や切断の影響が大きい。ホームネットワークと ISP サーバ間の通信帯域が逼迫した場合、優先度 1 または優先度 2 の通信の遅延やパケットの損失の恐れがあるため、優先度の低い通信のフローを破棄することで、優先度 1 または優先度 2 の通信のための通信帯域を確保するアドミッション制御を行う。

SDN を実現する代表的な技術である OpenFlow では、宛先 IP アドレスや宛先 MAC アドレス、宛先ポート番号などのルールが同じ通信の集合体を「フロー」と呼び、通信をフローごとに制御している。データ転送機能を担うネットワーク機器はフロー情報を内部に保存し、受信したパケットをフロー情報を参照して処理する。受信したパケットが保存しているフロー情報のいずれにも合致しない時、または必要に応じて、SDN コントローラはネットワーク機器に新たなフロー情報を送信し、ネットワーク機器はそのフロー情報に従い処理を行う。ここでは、SDN コントローラは、優先度 1 または優先度 2 の通信に十分な通信帯域がない場合、優先度の低い通信のフローを破棄するようゲートウェイに指示することでアドミッション制御を行う。

優先度 1 の通信のためのアドミッション制御のフローチャートを図 6 に示す。

SDN コントローラはゲートウェイと ISP サーバ間の通信帯域を監視し、一定周期ごとに優先度 1 または優先度 2 の通信に十分な通信帯域があるか確認する。優先度 1 の通信に十分な通信帯域がなく、かつ優先度 2 の通信に十分な通信帯域がない場合、優先度 3 または優先度 4 の通信のフローから破棄するフローを選択する。優先度 1 の通信に十分な通信帯域がなく、優先度 2 の通信に十分な通信帯域がある場合、優先度 2~4 の通信のフローから破棄するフローを選択する。その後、SDN コントローラは選択したフローを破棄するようゲートウェイに指示し、ゲートウェイは指示に従いフローを破棄する。優先度 1 の通信に十分な通信帯域がある場合でも、図 7 に示すフローチャートのように、優先度 2 の通信に十分な通信帯域がない場合には、優先度 3~4 の通信のフローを破棄するアドミッション制御を行う。

破棄するフローは基本的に優先度の低い通信のフローから選択する。しかし、ただ優先度の最も低いフローばかり選択していると、同じフローが破棄され続ける飢餓状態に陥る恐れがある。飢餓状態を防ぐため、各フローの破棄された回数を記録し、破棄するフローの選択に用いる。破棄するフローを選択する式を次に示す。

$$\text{Min}(w_2dc_2, w_3dc_3, w_4dc_4) \quad (1)$$

ここで、 w_2 , w_3 , w_4 は各優先度の通信に設定された重み、 dc_2 , dc_3 , dc_4 は各優先度の通信のフローが破棄された回数を表す。重みの大小関係は $w_2 > w_3 > w_4$ であり、優先度の高い通信のフローほど破棄するフローに選択されづらい。フローが破棄された回数 dc が増加するほど、そのフローが

飢餓状態に近づいていることを意味するため、 dc の増加に従い破棄するフローに選択されづらくなっている。

dc を初期化せず放置すると、 dc の値は大きくなるが dc_2 , dc_3 , dc_4 のそれぞれの差が小さくなるため、重み w の影響が小さくなってしまう。そのため、 dc に閾値を設定し、 dc_2 , dc_3 , dc_4 のいずれかが閾値を超えた際に dc をリセットする。

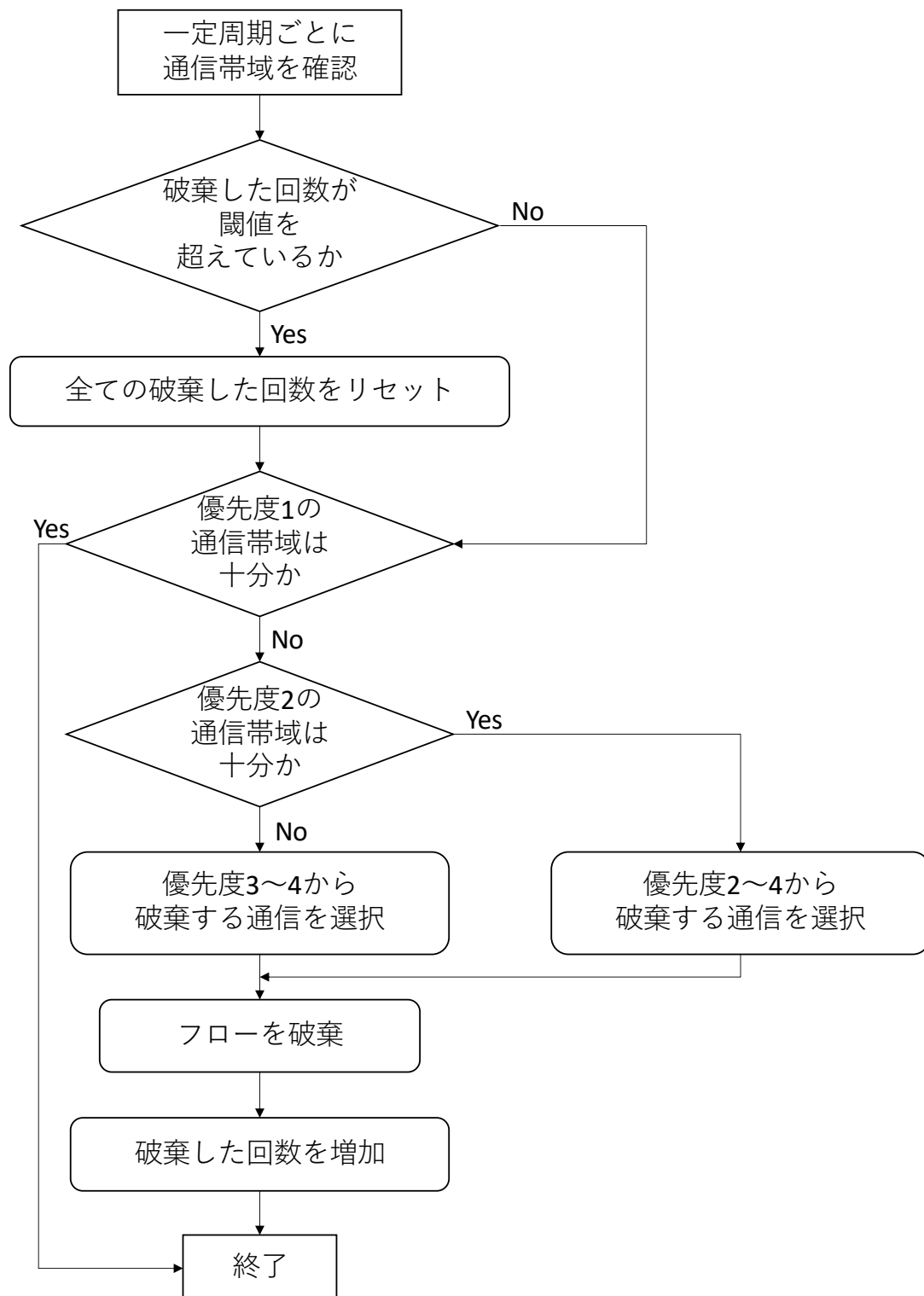


図 6: 優先度 1 のためのアドミSSION制御のフローチャート

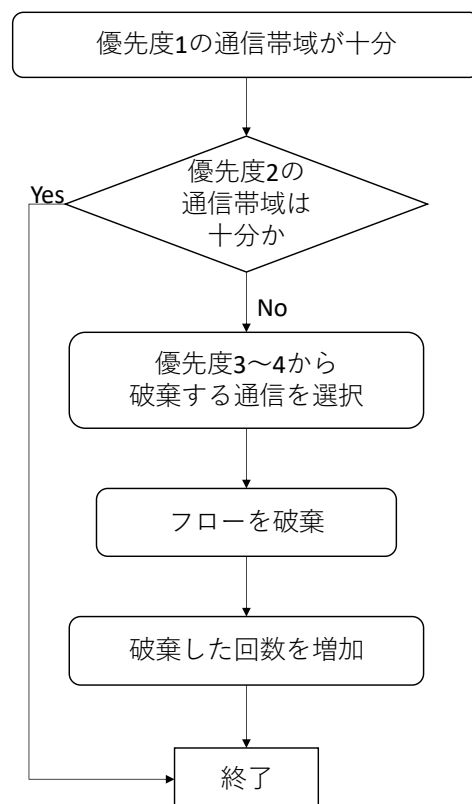


図 7: 優先度 2 のためのアドミッション制御のフローチャート

第4章 評価

4.1 評価環境

提案手法の有効性を評価するにあたり、ネットワークエミュレータである Mininet [5] を用いてホームネットワークと ISP サーバ間のネットワークを想定したネットワークを構築し、ネットワークシミュレーションを行った。構築したネットワークの構成を図 8 に示す。

4つのデバイスおよび ISP サーバは Mininet のホスト、ゲートウェイは Mininet のスイッチとして実装した。4つのデバイスはゲートウェイと接続しており、それぞれ優先度 1~4 の通信を行う。ゲートウェイはルータを経由せず、直接 ISP サーバと接続している。通常、ホームネットワークと ISP サーバ間の通信帯域はホームネットワーク内の通信帯域に比べて、デバイスまたはホームネットワークの数が少ない場合、提案する優先度制御にはルータの有無は影響しないため、上記のネットワーク構成によりシミュレーションを行なった。

4つのデバイスは、ISP サーバへ向けて、ゲートウェイを経由してパケットを送信する。ゲートウェイは、SDN からの制御メッセージに従い、アドミッション制御を行う。SDN コントローラには Ryu [6] を用いた。

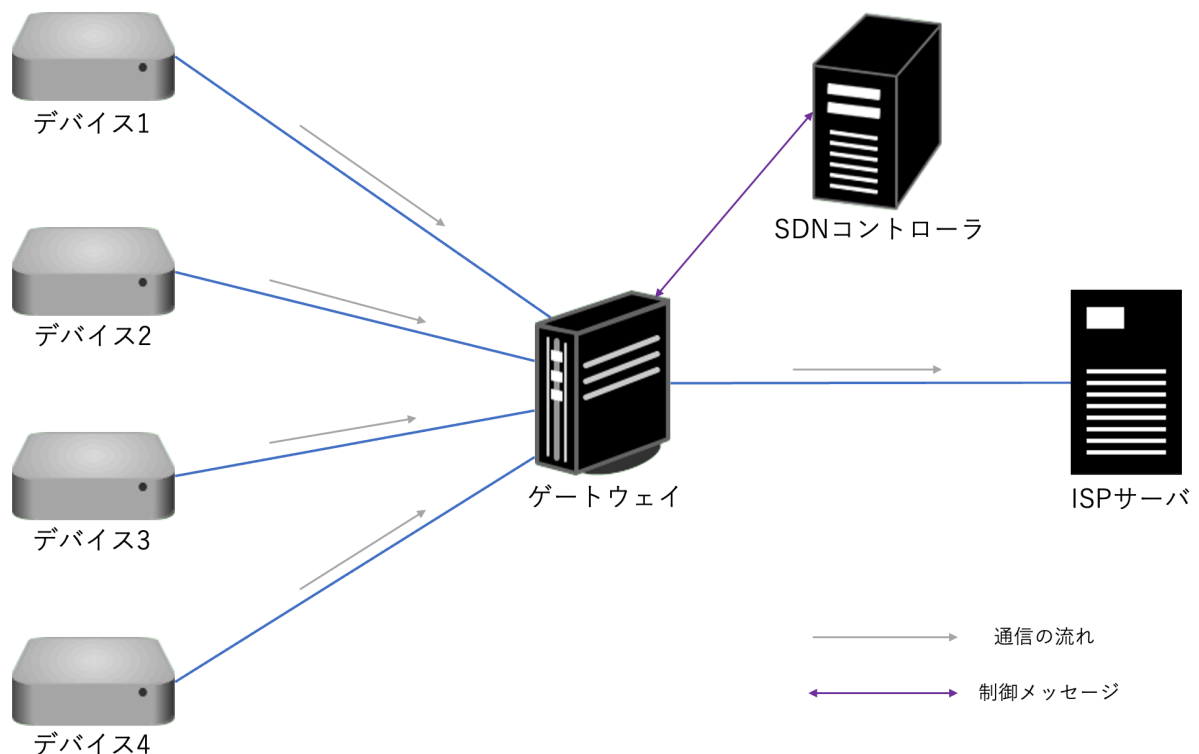


図 8: シミュレーションを行なったネットワーク構成

4.2 通信性能

4.3 通信のリアルタイム性

第5章 考察

第6章 おわりに

ホームネットワークの拡張や複雑化に伴い，SDN のホームネットワークへの適用が期待されている．ホームネットワークにはデータ特性が異なる通信が混在するため，データ特性から通信の優先度を分類し，通信帯域に応じて優先度制御を行う必要がある．これまで提案された優先度分類ではリアルタイム性が考慮されておらず，通信帯域の逼迫や優先度制御に伴うパケットロスの通信への影響が大きかった．

本論文では，

謝辞

本研究を進めるにあたって，多大なご指導とご支援を賜りました同志社大学理工学部 of 佐藤健哉教授に心より感謝いたします。また，研究内容について親身にアドバイスをくださった山本浩太郎先輩をはじめとしたネットワーク情報システム研究室のみなさまには，大変お世話になりました。さらに，学校生活や研究活動を支えて支えてくれた友人と家族へ感謝いたします。

参考文献

- [1] NEC. https://jpn.nec.com/sdn/about_sdn.html (参照:2022/1).
- [2] 総務省. 帯域制御の運用基準に関するガイドライン (改定). 2019.
- [3] Hung-Chin Jang, Chi-Wei Huang and Fu-Ku Yeh. Design A Bandwidth Allocation Framework for SDN Based Smart Home. *2016 IEEE 7th Annual Information Technology, Electronics and Mobile Communication Conference (IEMCON)*, pp. 1-6, 2016.
- [4] Guo-Cin Deng and Kuochen Wang. An Application-aware QoS Routing Algorithm for SDN-based IoT Networking. *2018 IEEE Symposium on Computers and Communications (ISCC)*, pp. 186-191, 2018.
- [5] Mininet.
- [6] Ryu.
- [7] iperf.

研究業績

- [1] 国本 典晟, 細野 航平, 膝 睿, 佐藤 健哉, "ホームネットワークにおけるデータ特性を考慮した SDN による優先度制御手法, " 情報処理学会 第 84 回全国大会. 2022. (発表予定)